

新たな収益基盤、未来への投資確立

前田道路は、技術研究所と技術部を統括管理し、技術力のさらなる向上と全国の支店との連携を強化するため、4月1日付で「技術本部」を新設した。技術本部長としてかじを取る守安氏は、「新たな収益基盤と未来への投資を確立するため、技術開発を通じて競争力の促進を図る。インフラサービスにおいて、この会社がなくなると困ると言われるような唯一無二の会社を目指したい」と力を込める。

■**そ**が聞きたい

適正な利益を得るためには、競争力、言い換えれば「顧客から選んでもらえる力」がなければならぬとし、「利益は競争力の結果であり、人への投資や設備投資、研究開発投資に活用する。その競争力を高めるために技術本部が存在することの考えを示す。注力分野として、カーボンニュートラル（CN）に貢献する技術開発を進めている。その一つとして以前から保有していた水で固まる常温合材のマイルドパッチの技術を進化させ、新しい補修材を開発

している。「橋梁の小規模補修に適した常温施工型アースアスファルト舗装補修材の『マイルドグース』は、特殊な機械は不要で、常温で流し込み施工が可能な補修材のため

め、CO₂排出量を大きく削減する」と語る。また、技術研究所の試験プラントに、日工が東京ガスと共同開発したアスファルトプラント用水素バーナーを設置し、アスファルト混合物の製造・舗装試験を行った。CNに関する取り組みをはじめ、サステナブルな社会を実現していく会社でなければ選ばれない時代が来るとみて、CNなどに貢献する技術を通じて競争力を生み出し、



もりやす ひろちか
守安 弘周氏

前田道路取締役常務執行役員
技術本部長兼CSR・環境担当

世の中に選んでもらえる会社にするのが大切だ」としている。

また、東京都府中市において、前田建設とのJVで道路包括管理業務を進めており、次世代道路包括管理システムの開発と実装にも注力する。生産性向上や働き方改革に

貢献する技術開発も進めている。生産性向上では「ICTやデジタル技術を活用した建設現場の生産性向上に努めている。建設機械にレーザースキャナーを搭載することで、リアルタイムに測量情報を把握し出来形管理が可能になったシステムを完成させ、出来形管理業務の時間短縮、現場への立ち入りを軽減することともに、事故リスクの低減にも貢献している」とし、この取り組みが高く評価され、国土交通省からiConstruction大賞、インフラDX大賞を受賞した。

働き方改革に貢献する技術の一つとして、ウェザーニューズと共同で舗装指数を盛り込んだ気象アプリを開発した。「従業員の計画的な働き方に役立てるとともに品質向上を狙っている。全従業員にアプリを配布した」としている。

技術本部では、これまで以上に他の事業部との連携を図っている。「支店や現場に足を運んで、開発した新技術製品の浸透と、現場からの声を大事にして現場のニーズに応じていく」ほか、インフロニア・ホールディングスとして前田建設のICI総合センターとの連携も進めていく。

1988年3月近畿大薬学部薬学科卒業、同年4月前田道路入社。2015年4月技術部長、18年4月製品技術部長、21年4月CSR・環境部長、22年4月執行役員CSR・環境部長兼技術担当、同年5月同CSR・環境担当兼CSR・環境部長兼技術担当、23年4月常務執行役員技術本部長兼CSR・環境担当（現職）、同年6月取締役（現職）。趣味は国内外での旅行。大阪府出身。65年7月17日生まれ、57歳。